

2017 年度事業計画

2017 年 3 月 27 日

学校法人 金城学院

目 次

はじめに	2
《資料》金城学院中期計画（2015年度～2020年度）	
I 2017年度事業計画の策定にあたって	7
II 金城学院大学	8
1 福音主義キリスト教による全人教育の強化	
2 教育・研究の支援と学生支援	
3 地域社会との共生	
III 金城学院高等学校及び金城学院中学校	11
1 キリスト教主義による全人教育の強化	
2 教育・研究の推進と学習支援	
3 地域社会との共生	
4 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進	
IV 金城学院幼稚園	15
1 キリスト教主義による全人教育の強化	
2 教育・研究の推進と学習支援	
3 地域社会との共生	
4 新入園児の受け入れ	
V 法人部門	18
1 教育・研究の推進と学習支援	
2 健全経営の維持	
3 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進	
4 金城学院創立130周年・大学設立70周年記念事業の立案と実施	
VI 予算概要	20
1 予算編成方針	
2 主な事業別予算	

はじめに

金城学院は、1889年（明治22年）の創立以来、長きにわたってキリスト教主義に基づく女子教育に心血を注いできた。「主を畏れることは知恵の初め（箴言1：7）」を学院モットーに掲げ、現在は、建学の精神に基づく学院全体の教育の柱「福音主義キリスト教による女子教育」「全人的な一貫教育」「国際理解の教育」に従って、大学では「強く、優しく。」を、中学校・高等学校では「自立・自律・連帯」を、幼稚園では「愛され、育ち合う。」を、それぞれ教育スローガンとしている。

本学院は、前述のとおり創立から128年という長き伝統を有している。その伝統とは、本学院の発展を願い、戦前・戦中・戦後の苦難の時代を乗り越え、絶えず改革を進めてきた先人たちの労苦の上に築かれたものである。このことに鑑み、本学院は今後も、変革すべきは変革し、変えてはならないものは変えない姿勢で、今日の教育機関を取り巻く厳しい環境や激しい社会の変化に対応していく。

なお、本学院は建学の精神の深化を基本方針とする「金城学院中期計画（2015年度～2020年度）」（次頁参照）を基に、常に学院全体の組織・機構についての客観的な評価を実施し、法人運営を将来にわたって強固なものにするとともに、将来をしっかりと展望しつつ、教育・研究における質的向上の不断の努力を今後も続けていく。

2017年度は、中期計画の3年目にあたる。ついては、中期計画課題を中心に、本年度の取り組みを進める。

《資料》金城学院中期計画（2015年度～2020年度）

テーマ／学校区分／中項目	施 策
Ⅰ キ リ ス ト 教 主 義 に よ る 全 人 教 育 の 強 化	大学 <ul style="list-style-type: none"> ・学生と教職員への建学の精神の徹底 ・キリスト教教育の再構築 ・学内礼拝の励行と教会出席の推奨 ・エラ・ヒューストン記念礼拝堂の活用 ・地域教会との連携強化 ・地域住民へのキリスト教講座の充実
	中学校・高等学校 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の企画・参加型礼拝の実施 ・近隣教会への出席の奨励 ・キリスト教教育実施体制の再構築 ・教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励 ・宗教主事の果たすべき役割の見直し ・キリスト教学校教育同盟との連携による「道徳の教科化」への対応 ・地域を中心としたボランティア活動への参加の奨励
	幼稚園 <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神に基づくキリスト教教育の意識強化と教育スローガンの実践 ・礼拝と祈りと奉仕の実践 ・近隣教会への出席の推奨 ・礼拝を通し「主の祈り、聖句、聖話、讃美歌」を幼児の心に刻むこと
	法人（学院全体） <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教関係諸行事の充実と地域教会との関係強化（礼拝の魅力化と学生・生徒・園児に対する伝道の強化） ・教会関係施設の地域への開放 ・歴史館の設置（金城学院アーカイブズの整理集約・保管・展示） ・キリスト教音楽活動の活性化

教育・研究の推進と学習支援	大学 教育・研究上の改革	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育の充実 ・社会から求められる教養教育の実現 ・国際理解教育の更なる推進 ・高度職業人の育成 ・教育課程の体系化 ・実質的な学修時間の確保 ・学生の主体的・能動的学びの実現 ・ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づく教育の実現 ・国家試験合格率の向上 ・研究成果の可視化と教育への還元 ・科学研究費などの申請件数、採択件数の拡大
	学生支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー制の充実 ・キャリア開発・就職支援の推進 ・学生マナーの向上 ・クラブ・サークル活動の活性化 ・学生相談体制の充実 ・学生ボランティア活動の促進 ・「K-カルテ」「K-PORT」による学生支援の充実 ・防災体制の整備 ・共通教育運営体制の充実
	教学マネジメント体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・FD活動及びSD活動の推進 ・自己点検・自己評価制度の更なる拡充
	中学校・高等学校 教育力の向上（探究力育成）	<ul style="list-style-type: none"> ・“Dignity”の充実 ・英語と社会の合科“World Studies”の充実 ・GDM（英語による英語教授法）を使った授業改善 ・ESD（持続可能な発展のための教育）導入の検討 ・多様な語学研修プログラムの推進 ・中高大教育連携の更なる推進
生徒支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立・自律・連帯」精神の育成と高揚 ・中高連携した進路指導体制の整備・充実 ・生徒相談に関するケースカンファレンスの定期的な実施 ・校舎建替え期間中の中高相互協力による良好な教育環境の確保 	
教学マネジメント体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・入試研究部における入試改善の研究 ・カリキュラム研究部における探究力育成の研究 ・教師力向上のための研修会の実施 ・教育評価制度の導入と施行 	

Ⅱ 教育・研究の推進と学習支援	幼稚園 魅力ある教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 自由活動とリンクした学年別活動・クラス活動の充実 縦割り（異年齢）保育の充実 保護者と教員との連携強化 保護者参加行事の見直し
	環境の整備と子育て支援 中高大との交流と教員の連携	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある園庭作りと、主体的な遊びを促す環境の整備 幼稚園周辺の豊かな自然の有効利用、保全、美化 預かり保育の拡充 未就園児保育「プレ幼稚園」の拡充 学生、生徒、園児の交流 教員相互の交流・連携
	法人（学院全体）	<ul style="list-style-type: none"> 修学及び成長意欲の喚起を促す奨学金制度の見直し
Ⅲ 健全経営の維持	組織力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 人事評価制度の見直し 管理職の育成 内部統制が有効に機能したガバナンスの確立 業務プロセスの見直しによる業務の効率化 危機管理体制の強化 教職員の意識向上によるリスクマネジメントの強化 内部監査制度の定着
	財務体質の強化	<ul style="list-style-type: none"> 各事業の費用対効果の検証 よりの確な意思決定ができる予算制度への改善 財務指標に裏付けられた健全経営の維持 財源多様化による収入基盤の強化
	広報の充実	<ul style="list-style-type: none"> 戦略的広報活動の推進 積極的な情報公開の推進
Ⅳ 地域社会との共生	大学	<ul style="list-style-type: none"> 環境共生モデル地区の維持と活用 「大学コンソーシアムせと」への積極的参加 KIDS（Kinjo Infant Development Support）センターの設置と運営 企業との積極的な連携 生涯教育、社会人教育、リカレント教育の充実
	中学校・高等学校 キャンパスの地域への開放 地域奉仕活動への参画	<ul style="list-style-type: none"> 東区主催「文化のみち」などでの施設・設備の開放と活用機会の提供 施設・設備の利用法の見直し 東区主催「文化のみち」への積極的参画と奉仕活動 社会福祉関係施設・保育関係施設での奉仕活動 病院・刑務所・福祉施設等への慰問 音楽系クラブによる演奏奉仕
	幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 大学との連携による子育て支援プログラムの推進 園児と地域の小学校・保育園との交流活動の実施 園児と地域の高齢者との触れ合い交流活動の実施
	法人（学院全体）	<ul style="list-style-type: none"> 歩道整備による地域住民及び学生の安全の確保

△ K M P 21 の 推 進	大学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学では、3期（1期…N1、N2棟及び礼拝堂の建築及び周辺整備、2期…W3棟建築及び周辺整備、3期…E1、E2棟建築及び周辺整備）に分けて整備計画を進めることにしている。 ・第1期は予定通り2014年度に終了した。 ・第2期(W3棟建築及び周辺整備)は、2014年度から実施しているが、これを計画通り2015年度中に完了させる。 ・第3期(E1、E2棟建築及び周辺整備)については、2020年度からの実施を計画しているが、それに向けた検討を行う。
	高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校では、2013年度に世光館を竣工した。 ・2014年度から地塩館の建て替えを実施しているが、これを計画通り2015年度中に竣工させる。 ・地塩館の竣工とともに栄光館を改修する。
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、高校の改築にともない設置した仮設校舎を引き続き利用し、2016年度から恵愛館、友愛館、信愛館の改築を実施し、2017年度中に竣工させる。
VI 金城学院創立130周年・大学 設立70周年記念事業の立案 と実施		<ul style="list-style-type: none"> ・130周年記念事業についての立案と実行 ・130周年記念寄付金の募集 ・みどり野会（金城学院同窓会）との連携強化 ・金城学院資料室の整備

I 2017年度事業計画の策定にあたって

少子高齢化の進行、学校間競争の激化など、私学を取り巻く環境は大変厳しいものがあり、社会のニーズもますます多様化してきている。金城学院は、そうした様々な社会の変化とその要請に対して迅速かつ適切に対応できるよう、2017年度も大学から幼稚園に至る各学校において、様々な教育制度の改革や経営の改革を推し進める。

大学では、福音主義キリスト教による全人教育の強化を主軸とした教育・研究の推進と学生支援の充実に取り組む。そして、教育・研究の成果を広く社会に還元することを念頭に地域社会との共生を推し進める。

高等学校及び中学校では、「確かな学力」を育むためアクティブ・ラーニング推進と評価の検討を深化させ、“Dignity”を有するピースメーカーの育成を進める。

幼稚園では、少子化に伴う園児数減少や母親の就労に伴う保育園志向を踏まえ、これまで大切にしてきた保育方針を基に、子育て支援ならびに入園希望者拡大策として預かり保育や2歳児プレ幼稚園を拡充させるとともに、満3歳保育を実施する。

法人部門では、中期計画に基づき、学生・生徒・園児が経済的にも安心して教育が受けられるよう、奨学金について検討するとともに、健全経営を行うため、各種施策を進める。

なお、KMP21については、中学校では新恵愛館の建替え工事を計画通り8月末に竣工させる予定である。高等学校では仮設校舎を解体しグラウンドに再整備するとともに、希望館を解体し跡地の外構整備を実施する予定である。

II 金城学院大学

「強く、優しく。」を教育スローガンに掲げ、多様化する社会で主体的に生きる強さと思いやりの心を兼ね備えた品格ある女性の育成を目指す。大学での教育と研究の活動が、知識だけではなく、熟慮と慎重さをもって生きることへ導く知恵の修得につながるよう、教職員が協力して以下の計画の実現に向けて取り組む。

具体的には学院中期計画（2015年度～2020年度）に基づき、福音主義キリスト教による全人教育の強化を柱に、教育・研究の推進と学生支援を計画し、教育・研究の成果を還元するための地域社会との共生の事業を計画した。

1 福音主義キリスト教による全人教育の強化

① 学生と教職員への建学の精神の徹底

学生に向けて、新入生のためのオリエンテーションや、金城アイデンティティ科目の授業の中で、機会ある毎に確認してゆく。教職員に向けては、礼拝出席を促す工夫をするとともに、新任教職員オリエンテーションや夏期修養会、大学教員キリスト教セミナーを、「建学の精神」確認の時として位置づけるようにする。

② 学内礼拝の励行と教会出席の推奨

教職員に向けて、とくに教員に礼拝出席を勧める工夫に力を入れる。また、外部からの礼拝説教者には学期中、説教を3回程度依頼し、教会への出席につなげていく。学生とくに上級生の礼拝出席を促すようにする。

2 教育・研究の推進と学生支援

(1) 教育・研究上の改革

① 社会から求められる教養教育の実現

2015年度の共通教育科目のカリキュラム見直しに基づき、本学の設立理念を実現するための共通教育の教育理念を基盤としたカリキュラム設計を具体化し、関連する各部署と連携して2019年度の（新）共通教育カリキュラム策定を目指す。

② 国際理解教育の更なる推進

2017年度から開始する「副専攻（実践ビジネス英語）プログラム」および受け入れ留学生対象「Kinjo O-MO-TE-NA-SHI プログラム」の円滑で効果的な運営の土台を作る。引き続き、学生の多様なニーズを満たす新たなプログラムを検討するため、国際交流センターを中心に情報収集を継続的におこなう。また「学内留学」の内容を充実させ、教育・研究の国際的な交流に対する学生のモチベーションを喚起する施策を検討する。

③ 学生の主体的・能動的学びの実現

図書館資料活用奨励活動を推進し、より多くの学生の自立学習を支援する。具体的には図書館資料利用ガイダンス、レポート・論文作成講習会や図書館活用のスキルを取り入れたイベントを実施する。また、在学中に実践的英語力を身につけることの意義を引き続き広く周知し、各職業分野での英語に強い人材へのニーズの高まりを理解させると共に TOEIC 受験を促進する。

(2) 学生支援の充実

① アドバイザー制の充実

2016 年度学科別 FD 協議会において見出されたアドバイザー制・オフィスアワーに関する課題を克服するための方策について学生生活委員会を中心に検討し、運用の充実を図る。

② キャリア開発・就職支援の推進

インターンシップを利用した採用の是非が議論される中、文部科学省が設置したインターンシップの推進等に関する調査研究協力者会議の動向を踏まえ、状況に応じて必要な対策を講じる。また、業界・企業研究の手法を検討して就活生に情報提供し、就職先とのマッチングを高めていく。

③ 学生マナーの向上

学生マナー向上を目的とした各種イベント、ポスター掲示等の啓発活動を計画して実行する。その際、積極的に学生会と連携して意識の向上を図る。

④ クラブ・サークル活動の活性化および学生ボランティア活動の促進

クラブ・サークル活動の活性化を目的とした支援策を検討する。また、これらの活動を地域社会に還元すべく、ボランティアとして活躍できる場所、機会を開拓する。

⑤ 防災体制の整備

防災管理委員会を中心に危機管理体制を整備する。また、学内の防災に係る資料、案内等を学生の視点から検討し、リーフレット等を作成する。また、国際交流センターによる海外危機管理セミナーを引き続き実施するとともに、留学生会館においても防災訓練を実施し、居住する留学生と RA（レジデント・アシスタント）の防災意識を高める。

(3) 教学マネジメント体制の強化

① FD 活動及び SD 活動の推進

3つのポリシーを基軸とした様々な改革が求められている状況下、教職員全体で情報を共有するため、外部講師による大学改革をテーマとした講演会を FD 及び SD の取組みとして実施する。また、他大学における FD 活動の紹介や私立大学情報教育協会の情報の共有を通して、各学部・学科・研究科における FD 活動の活性化を目指す。

② 自己点検・自己評価制度の更なる拡充

(新)『『大学基準』及びその解説(2018年4月1日施行)』に対応した大学として求める教員像及び教員組織の編制方針を策定し公表を目指す。同様に全学的な組織で、全学的な観点から行う内部質保証の体制を検討する。また、薬学教育評価機構による評価を受審するための準備を開始する。

3 地域社会との共生

産学連携活動・地域連携活動を推進するため、大学のもつ知財や活動内容を積極的に公表してシーズを発信するとともに、問い合わせ窓口を HP に公開して新たなニーズの開拓に取り組む。また、KIDS センターや地域との連携協力プログラムなどの実施状況を点検し、学部の専門性を生かした社会貢献の充実を図る。

Ⅲ 金城学院高等学校及び金城学院中学校

建学の精神に基づき、「確かな学力」育成に呼応した新しい教育観を全教員で共有する。思考力を育成するための教育プログラムや評価に関しては、「Dignity」を軸として、より一層推進し各教科のカリキュラムもそれに対応するものになりつつある。教員の学習観や授業観の大転換を図るためアクティブ・ラーニングおよびその評価についての研修を行い、育成すべき思考力・判断力・表現力を育成するとともに、生徒が受け身でなく主体的・協働的に学ぶことができるように促す方法へと学習方法を更に進化させる。

従って、2017年度は、「確かな学力」を育むためアクティブ・ラーニング推進と評価の検討を深化し、「Dignity」を有する「自立・自律・連帯」できるピースメーカーの育成を目指し、次の事業を推進する。

また、12歳人口の減少や社会環境・経済状況の変化に対応して安定的に新入生を確保できるよう、企画広報室を中心に学校広報を展開する。

1 キリスト教主義による全人教育の強化

① 生徒の企画・参加型礼拝の実施

伝道週間や特別礼拝などを、宗教常任委員会、宗教委員会を中心に、生徒によって企画を立てて行い、生徒の参加を更に促していく。

② 近隣教会への出席の奨励

教会出席奨励日があるが、1年を通して、担任や授業担当者（聖書科を中心に）の協力を得て、引き続き教会への出席を促す。

③ キリスト教教育実施体制の再構築

これまでの中高の一貫教育としてのキリスト教教育の意義を確認し、「礼拝、行事、聖書科授業」のさらなる連続性を構築していくとともに、キリスト教教育の中で、宗教課が直接、責任を負う生徒の特別活動、ハンドベルクワイアやYWCAなどを、中学・高校で同じ位置付けに整える作業を進める。

④ 幼中高教師修養会の充実

本校の教育の礎であるキリスト教について学ぶ機会として、幼中高教師修養会を更に充実させる。

⑤ 教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励

キリスト教学校教育同盟の研修会への参加を促す。さらに、それぞれの年代からの代表が参加していけるようにする。

⑥ 宗教主事の果たすべき役割の見直し

キリスト教教育全般をつかさどる各校の宗教主事が、学院主事会の責任のもとでそれぞれの役割を担い、ますます中高大の連携を強化する。

- ⑦ キリスト教学校教育同盟との連携による「道徳の教科化」への対応
キリスト教学校教育同盟と連携し、中高における道徳という教科の位置付けを学院主事会で話し合い、学院として方針を決定する。
- ⑧ 地域を中心としたボランティア活動への参加の奨励
課外活動としてのボランティアの形を整え、他者に感謝して仕えることで社会に参加できる生徒を養い育てる取り組みを継続する。

2 教育・研究の推進と学習支援

(1) 教育力の向上（探究力育成）

生徒の情報を中高で共有し、学習指導の連携をより一層滑らかにすることで学習効果をより一層引き出すとともに、以下の施策を中心に教育力の向上を図る。また特に、高校では学習指導要領改訂を前に新たな科目・領域の指導に向けた準備を進める。

- ① ”Dignity”の充実
中高大共同研究「中学から大学までの汎用的能力を育成する教育手法の開発」で得られた手法を用いて充実を図ることができるよう、この研究に対して主体的に関わる。
- ② 英語と社会の合科”World Studies”の充実
- ③ GDM（英語による英語教授法）を使った授業改善
- ④ ESD（持続可能な発展のための教育）の推進
- ⑤ 多様な語学研修プログラムの推進
- ⑥ 中高大教育連携の更なる推進
中高大共同研究「中学から大学までの汎用的能力を育成する教育手法の開発」を進める。
- ⑦ 中学の授業における ICT 活用の検討

(2) 生徒支援の充実

- ① 「自立・自律・連帯」精神の育成と高揚
- ② 中高連携した進路指導体制の整備・充実
 - ・進路指導についても、単なる知識・技能の習得度に基づく指導を行うのではなく、多面的・総合的な評価に基づき、生徒一人ひとりの将来目標の実現を支援する観点に転換する。
 - ・大学入試制度の変更や入試の多様化について、進路指導課として情報収集し、早めの準備やその対応方法などを提案する。
- ③ 生徒相談に関するケースカンファレンスの必要に応じた実施
- ④ 校舎建替え期間中の中高相互協力による良好な教育環境の確保

- ⑤ アレルギー対応指導等の実施
- ⑥ 中学新校舎完成に伴う新しい教育環境への安全かつスムーズな移行

(3) 教学マネジメント体制の強化

- ① 入試研究部における入試改善の研究
 - ・入試研究部を中心として、思考力を測定するような記述式試験、および2020年小学校指導要録改定に伴う英語試験の中学入試導入について検討する。
 - ・塾などの主催する入試研究会への参加、入試情報誌の閲覧、研究部内での勉強会の実施などを行う。
- ② カリキュラム研究部における探究力育成の研究
 - ・教育目標図に示されている「科学的思考」「表現」「協働」を育成する授業の開発支援をする。
 - ・2016年度の各教科の授業実践報告を分析し、教育目標が教科教育においてどの程度達成されているかの把握をする。
 - ・教育課程表の形式の改善をする。
 - ・21世紀型学力の研究開発をする。
 - ・次期学習指導要領の内容及び高等学校教育・大学教育・高大接続の一体改革の動向把握をする。
 - ・中学新校舎でe-黒板を活用し、活用力を養う授業の計画と実施をする。
- ③ 教師力向上のための研修会の実施
 - ・中高教師研修会の実施
期日：8月10日（木）
講師：溝上慎一氏（京都大学教授 高等教育研究開発推進センター）
- ④ 教育評価制度の導入と施行
 - ・カリキュラム研究部を中心に新たな評価方法の研究・開発を行い、生徒の多様な学習成果や活動を評価する方法に転換する。
 - ・調査書及び指導要録の様式等についても新たな中学校・高等学校の在り方を踏まえ、生徒の多様な学習成果や活動が反映されたものになるように改定する。

3 地域社会との共生

(1) キャンパスの地域への開放

- ① 東区主催「歩こう！文化のみち」などでの施設・設備の開放と活用機会の提供
- ② 施設・設備の利用法の見直し

(2) 地域奉仕活動への参画

- ① 東区主催「歩こう！文化のみち」への積極的参画と奉仕活動
- ② 社会福祉関係施設・保育関係施設での奉仕活動
- ③ 病院・刑務所・福祉施設等への慰問
- ④ 音楽系クラブによる演奏奉仕

4 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進

2016年度からKMP21に基づき中学校では仮設校舎に移転し教育活動を行っているが、8月まで円滑に新校舎「恵愛館」の新築工事を進める。9月からは恵愛館で教育活動が行うため、安全かつ滞りなく移転がおこなえるよう計画・実行する。更に、9月以降に高校希望館・新希望館の解体とグラウンドの整備を進め、年度内に全ての工事を終える。これらの工事を生徒の安全を第一に行う。

IV 金城学院幼稚園

2015年度から施行された「子ども・子育て支援新制度」は、地方自治体の取り組み方により導入が左右されている。特に名古屋市は幼稚園志向が根強く、認定こども園への都道府県別移行状況は京都府、奈良県、岐阜県に続き遅れている。本園は創設の理念を大切にしたい教育方針に基づく幼稚園教育を推進するために、2017年度も現行の幼稚園として歩みつつ、地域に根差した子育て支援拠点としての役割も担っていききたい。

更に、中期計画に掲げている満3歳児保育を2017年度から施行する。これは本園の特色である縦割り保育の拡充を図るとともに、育児環境悪化や育児力低下により悩む親の子育て支援の一端ともなる。更に、今後の出生率減少による入園児獲得対策とし、さらなる教育の推進のため、2017年度の教育事業を以下のように進める。

1 キリスト教主義による全人教育の実践

① 建学の精神に基づくキリスト教教育の意識強化と教育スローガンの実践

キリスト教保育連盟年間聖句「あなたがたは神に愛されている子供です。(エフェソの信徒への手紙 5章 1節)」を2017年度主題聖句とし、教育スローガン「愛され、育ち合う。」を実施する。

② 礼拝と祈りと奉仕の実践

全園児合同礼拝、クラス礼拝の充実を図る。また年長児によるクリスマスキャロリング、ハンドベル演奏などを通し地域での奉仕を実践する。子どもの素直な言葉による祈りの心を大切に育む。

③ 近隣教会への出席の推奨

教会出席のきっかけ作りとして、夏休みなどの長期休暇に教員が交代で子どもたちと共に地域の教会へ出席をする。また教職員、クリスチャン保護者の通う教会案内を掲示し、親子での教会出席を奨める。

④ 礼拝を通し「主の祈り、聖句、聖話、讃美歌」を幼児の心に刻む

毎月の聖句暗唱、讃美歌、聖話は天地創造からキリストの降誕、イエスの生涯、十字架の贖罪、復活と昇天を年間カリキュラムに組み入れ伝える。3学期には全園児で主の祈りを覚える。

2 教育・研究の推進と学習支援

(1) 魅力ある教育の推進

① 縦割り保育の充実

現行の3・4・5歳児に今年度から満3歳児が加わることにより、更に広がり柔軟性を持たせた縦割り保育を行う。

② 自由活動とリンクした学年別活動・クラス活動の充実

主体的で能動的な活動としての遊びが協同的経験として子どもの中で充実していくために、自由活動と学年別活動・クラス活動をリンクさせながら、一貫性を持たせた保育に取り組む。

③ 保護者と教員との連携強化

保護者と教員との懇談や保護者の保育参加を通し、園児の相応しい成長のための連携強化を図る。

④ 保護者参加行事の見直し

年間行事では保護者負担にならないよう、有志参加のものを中心に行う。また、父母の会活動に関して、従来通り自発的奉仕の精神を基本にしつつも、母親の就労や会員数減による負担感がないように、委員数や活動項目を見直し縮小化させていく。

⑤ 教員の研修

- ・各種幼児教育の研修や公開保育の積極的な参加を推奨する。
- ・園内研修を随時行い、更なる保育の充実に努める。

(2) 環境の整備と子育て支援

① 魅力ある園庭作りと、主体的な遊びを促す環境の整備

魅力ある園庭、主体的な遊びを促す環境整備に努める。また同時に、遊具や設備の安全点検を日常的に行い、メンテナンスを定期的に行う。

② 預かり保育の拡充

通常保育後の教育活動としての預かり保育のニーズはますます高まり、更なる子育て支援として量、質の充実に努める。

③ 未就園児保育「プレ幼稚園」の拡充

2歳児プレ幼稚園、入園前プレ幼稚園の充実拡充に努める。

(3) 中高大との交流と教員の連携

① 学生、生徒、園児の交流

大学・大学院生の実習、中学生・高校生の職場体験、高校生キャラバン隊、中高大ハンドベルクワイアによる奉仕など、様々な交流の機会をもつ。

② 教員相互の交流・連携

幼中高修養会、メサイアなどを通しキリスト教教育に携わる者同士の交流・連携を深めていく。

3 地域社会との共生

① 大学との連携による子育て支援プログラムの推進

KIDS センターとの連携により、相互の活動が地域の子育て支援に生かされるよう進める。

② 園児と地域の小学校・保育園との交流活動の実施

近隣の保育園児を招き、ドッジボール大会や一緒に遊ぶ活動など年長児を中心に計画していく。また例年3学期に地域の小学校を訪問し、一日体験をさせていただいている。2017年度も引き続き訪問依頼をする。

③ 園児と地域の高齢者との触れ合い交流活動の実施

ハンドベルコンサートに近隣のお年寄りを招くなどの計画を通して交流を深め、いつも見守って下さる地域のお年寄りへの感謝を表す機会とする。

4 新入園児募集の取り組み

(1) 入園願書配布のための取り組み強化

① 幼稚園体験と説明会の充実

② 幼稚園広報の充実

見学参加者アンケートから、80%以上が幼稚園探しに最も有効な手段としてホームページを挙げている。幼稚園ホームページを更に分かりやすく魅力あるものにするよう努める。またチラシ・ポスターなどにも工夫を凝らしていく。

V 法人部門

金城学院大学、金城学院高等学校、金城学院中学校及び金城学院幼稚園が行う様々な事業を、円滑かつ健全に運営するために法人部門が担う役割は極めて重要である。変化が激しい社会環境や多様化するニーズに応えることができる学校法人であるために、絶え間ない組織・経営改革を推進することを、法人部門は求められているからである。

このような認識と使命の下、学校法人金城学院の中期計画に基づく法人部門の2017年度事業計画としては、次の4点を掲げてその取り組みを進める。

1 教育・研究の推進と学習支援

- 就学及び成長意欲の喚起を促す奨学金制度の見直し

本学院の各校・園に通うすべての学生・生徒・園児が、経済的にも安心して教育を受けられるよう、給付型奨学金を前提として、新たな方策を検討する。

2 健全経営の維持

(1) 組織力の向上

- 危機管理体制の強化

東海地震・東南海地震・南海地震が連動した「南海トラフ大地震」の対応策について、総合的に対処できるよう、詳細にわたるマニュアルを作成する。

(2) 財務体質の強化

- ① 財務指標に裏付けられた健全経営の維持

2017年度内で、KMP21に関連する一時的支出も一旦収束するため、改めて経常的支出内容を精査し、それに基づき健全状況の財務指標の目標値を設定し、2018年度以降の予算編成を推し進める。

- ② 財源多様化による収入基盤の強化

特に「寄付金」についてより充実・拡大させていく。130周年記念寄付金募集につながる積極的な寄付金募集企画を検討する。

(3) 広報の充実

- 戦略的広報活動の推進

教育・研究活動を通じて構築されたブランド力を更に高めて行くため、交通広告・動画サイトを継続するとともに、新たな広報戦略を検討する。

3 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進

① 中学校校舎の改築

中学校は、2016年度から恵愛館・信愛館の新恵愛館への建て替えを実施しているが、これを計画通り2017年8月末に竣工させる。

② 高等学校の校地整備

高等学校では、中学校の新恵愛館竣工後、仮設校舎を解体しグラウンドに再整備するとともに、希望館を解体し跡地の外構整備を実施する。

4 金城学院創立130周年・大学設立70周年記念事業の立案と実施

○ 130周年記念事業についての立案

金城学院創立130周年を、建学の精神に基づく学院の使命を改めて確認する機会としてとらえ、130周年記念事業を、昨年度作成した記念事業実施までの日程表に基づき、具体的な企画を立案し、実施に向けて検討する。

VI 予算概要

1 予算編成方針

(1) 収入関連

学生生徒納付金収入は、各校とも対入学者定員 100%、退学・休学想定率 2%とする。補助金収入は、前年度実績の 90%もしくは最低補償額を見込む。その他の収入等は、不確定な要素があるので、例年通り織り込まない。

(2) 支出関連

健全財政の確保を目的として、2017 年度の継続経費は、「2016 年度規模に対するゼロシーリング」を目指す。また、2016 年度に引き続き、防災対策強化、環境配慮などの政策的予算への積極的な再配分を目指す。設備更新関連は、緊急性、有効性などを十分検討し予算化する。

(3) 保有資金

KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）に関連する収支を除いた予算で、2017 年度において保有資金の増額 10 億円以上を目指す。

2 主な事業別予算

予算編成方針に基づき、2017年度の主な事業に対する予算を次のとおり計画した。

(単位：千円)

分類	事業内容	予算額
KMP21 関連事業	(高等学校) ・ 既存校舎解体工事 ・ グラウンド整備工事	1,656,427
	(中学校) ・ 新校舎建設工事 ・ 講堂及び友愛館改修工事 など	
防災対策 強化事業	(法人) ・ 標的型攻撃メール対策訓練	6,976
	(大学) ・ KIDS センター防災対策工事 ・ 学生駐車場外灯整備工事 ・ 災害備蓄品入替	
	(中学校) ・ 機械警備導入設置工事	
教育設備 充実事業	(大学) ・ コンピュータ教室更新 ・ 無線 LAN アクセスポイント増設 ・ シラバスシステム更新 ・ 証明書自動発行システム更新 など	97,460
修繕事業	(大学) ・ W1 棟設備・機器年次改修 ・ W5 号館、W8 号館トイレ改修 ・ 留学生会館改修 など	107,787
	(中学校) ・ 講堂内部改修工事	
	(幼稚園) ・ 園庭補修工事	
広報事業	・ 新聞広告掲載 ・ 鉄道額面ポスター掲出 など	70,000
その他	・ 緊急特別就職支援策 など	99,652
合計		2,038,302